

## ごみゼロネット推進会（第8回）議事録

開催日： 2009年(H21年)4月20日(月)10:00～12:00

場所： ウエスト（新小金井駅前）

出席者： 平林、加藤、市原、杉本、大橋、加賀谷、伊藤、武田、落井、桐生（作成）

議題：

### 1. 「高速土着菌発酵システムMaCSについて」補足説明（桐生）

既にMLで配布された2009/4/3付け標記資料に関し、第3頁の追記事項と「同、ノウハウ事項」を配布して説明した。ノウハウ事項はホームページ上に公開しない方がよいが、当会内では知っておくべき事項に関する。土着菌の培養／菌の働き／攪拌棒の回転速度と温度分布／本体の温度制御／ヒートポンプ方式について、の各項。大橋氏より「ジェイマックス株式会社」で検索すると多くの情報が得られること、加藤氏より「当社はダムの堆積汚泥の処理からこの仕事に入った企業だ」との紹介があった。

### 2. 「処理方法の比較表」「処理施設の3つの原則」説明（平林）

標記2件の資料を配布、説明された。ごみ問題に関心を持っていそうな市民に問いかけても、我々が此処で話し合っているような処理方式について全く知らない。現在、進めている専門的な諸方式の比較検討を更に深化させる一方で、一般市民に理解できる形でのPR資料の作成も必要である。

「処理方法の比較表」：本案（横軸に亜臨界水／炭素化／減圧発酵／炭化／焼却、縦軸に温度／雰囲気／圧力／時間／水分処理／残渣／エネルギー／排出ガス／排出水分量）はその叩き台である。

「処理施設の3つの原則」：①市民の健康・安全・安心の原則（環境負荷≒ゼロ、直下型地震安全・短期修復、公害ゼロ・快適空間）、②特定地域の住民の犠牲の上に成り立つ設備にしない（不公平でない、交通妨害ない等）、③費用対効果の合理性の原則（総費用分析、運営上の合理化・効率化・リスク回避等）

本件に関し、市原氏より「実行可能性を加えたい」、杉本氏より「実証実験をやる原則を加えた等の活発な提案があった。次回より、本提案の具体化に入る。

### 3. 共産党市議への働きかけ（市原）

依然、焼却方式に固執している共産党市議4名に対して「とんぼの会」が啓蒙の働きかけを企画している。来る5/1の夜、会談の場を設定してあると事情説明あり。本日の参加者からも数名(トータル5名以内)参加することになった。

加藤氏は「2年前は共産党市議たちは焼却方式一辺倒であったが、最近の市議(観物提示)や市議会での発言では非焼却に傾いている」と紹介有り。

直近の市議選による政治勢力の変化からも、むしろ非焼却が本命になる可能性が見えてきた等の発言が活発になされた。

### 4. 最適なごみ処理方式の提案（加藤・平林）

#### (1) 本命は「生ごみ」は分別して減容し、その後、炭素化処理方式。

但し、炭素化は技術の方向性は良いが、排気の無害化等の設備が未実施で、我々が市長に申請してもその点を突かれると返答に窮する。実証実験と実用機との間には大きな乖離があることに留意。

#### (2) 「生ごみ」に関しては、ジェイマックス（株）の1日処理量2トンの設備をリース（月34万円）して、期限を決めて実証実験したい。

八王子へ持ち込むと生ごみ処理費は10万円/トンになるので、総費用から日量2トン（20万円/日）を実証用に廻せば運営可能。場所はジャム跡地の一部、面積500㎡、処理対象は付近の大型団地を想定。生ごみは家庭内では分別されており、実行容易。発生当日処理が可能で、腐敗臭から解放される。実証運転が始まれば、市民や都民の見学者が多数来て、ごみ問題への理解のステップへの展開）が画期的に進む。

#### (3) □実証実験によって期待できる効果は、①小金井市がごみ処理に真剣に具体的に取り組んでいるとの姿勢

を周辺都市にも理解してもらえる、②生ごみを全量市内で処理できるようになれば、残るごみは悪臭から解放され、沿道の住民の苦情もなくなり、広域支援を受け入れてもらい易くなる。

## 5. 今後の進め方の提案（平林）

市議会が動き出して、始めてごみ問題は現実に進展する。そのために次の行動計画を進めたい。

- (1) 実行可能な実証実験実施計画書を作成する。
- (2) 小金井市のごみ問題に関連する複数の団体に諮り、各団体に本計画に協賛してもらう。
- (3) これら団体の総意として市議会に陳情書を提出して、市議会に実証実験の実行を決定してもらう。

前述2項の提案はこのためのものである。出席者全員、この提案に賛同した。次回以降、本提案の具体的展開を進める。団体としてその場で挙げられたのは、「とんぼの会」「環境市民会議ごみ部会」「シニア SOHO 小金井」「小金井東部の環境を良くする会」「ジャノメの環境を良くする会」等。（筆者の聞き違いがあるかも知れないが、乞うご容

赦）尚、各団体との協働を進めるための主宰者として、平林氏を推したいとの声が多かった。

## 6. その他の意見交換

- 生ごみ処理用として「クウタくん業務用」は使えないか（伊藤）。…使用可能性は高い。ジャノメ通りの飲食店街での具体的な計画も持っている（ごみの収集場所、時間帯、処理場の場所等を具体的に説明）（加藤）。
- 炭素化処理の EEN 社の商談が具体的に展開しつつある（平林）。（資料回覧：進行中商談 23 件あり。確実性が高いA級が5件見られた。特に小諸市に注目！）
- 高速低圧発酵処理について見学を急ぐなら、1.9 万円の費用で韓国の実施例を紹介できると堀口社長からいわれている（加藤）。…数ヶ月以内に須坂市の実機が運転開始するそうだから、それで充分でないか（市原）。
- 共産党市議団との話し合いには、「ごみゼロネット」の資料（チラシを呈示）を利用してほしい（大橋）。
- 市議会に陳情書を出す前に、賛成派の議員たちに説明しておく必要がある（平林）。…反対派の議員たちも、実情を知らないから反対に廻っているように思う。その人たちにも説明を怠ってはならないのでないか（伊藤）。…

その通りである。そのようにしたい（平林）。

○今回から杉本氏がこの会合に加わる。「ごみゼロネット」のMLにも参加する。

以上

次回打合せ 日時：5月11日（月）10：00～12：00 / 場所：ウエスト

